

令和5年度 鶴岡市決算特集

大山下池に渡来したカモの群れ
令和5年に太山上池・下池はラムサール条約登録15周年を迎えました

令和5年度の 決算を報告します

令和5年度は、本市の最重要課題である少子化・人口減少対策に加え、原油価格・物価高騰対策に係る各種施策を推進しました。

原油価格・物価高騰対策では、市民生活や地域経済への対策として、各種給付金や給食費の無償化等を含む30億円規模の支援施策を実施しました。

併せて、将来の市政運営を見据えて財政構造の健全化にも取り組んだ結果、普通会計の実質単年度収支は3億5千万円となり、5年連続で黒字を確保しました。

また、3年連続で、財政調整基金及び減債基金を取り崩すことなく財政運営を行ったほか、市債残高が49億7千万円の減となり、将来の財政負担を大きく減らすことができました。

決算額は、歳入が6億8千万円の減、歳出が1億7千万円の減と、歳入・歳出ともに対前年比で減となりました。これは、4年度に実施した、国営かんがい排水事業や先端研究産業支援センター拡張事業が終了したこと等が大きな要因です。

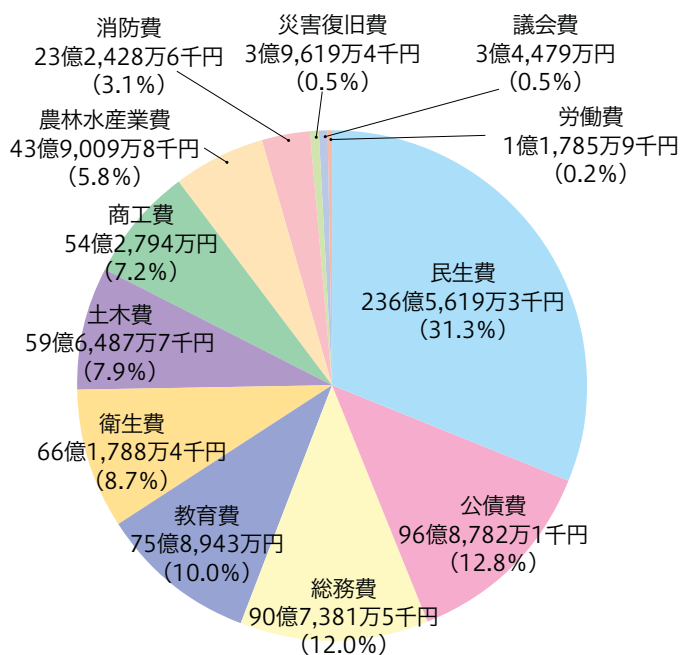
歳入歳出の主な増減の理由は2ページに記載しています。

普通会計歳出決算額

755億9,118万7千円

(対前年度 -1億6,980万6千円)

歳出の内訳

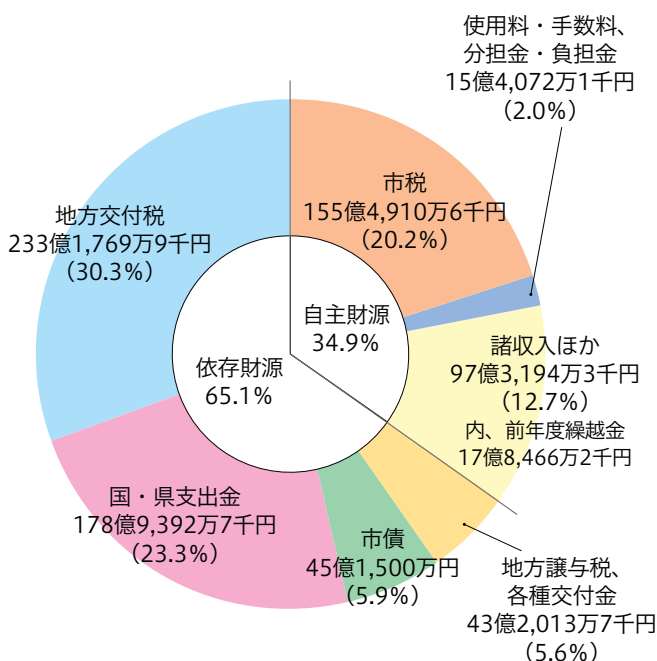


普通会計歳入決算額

768億6,853万3千円

(対前年度 -6億7,712万2千円)

歳入の内訳



前年度と比べた主な増減の理由

歳出

- 義務的経費（支出が義務付けられているお金）
 - 扶助費…9億3,635万1千円の増
住民税非課税世帯等への物価高騰対策支援給付金の増
 - 公債費…5億6,931万7千円の増
先端研究産業支援センター拡張事業、一般廃棄物最終処分場整備事業等の元金償還の本格化などによる増
- 投資的経費（道路や建物の建設など、社会資本として将来に残るものに使われるお金）
 - 普通建設事業費…10億1,072万6千円の減
国営かんがい排水事業や先端研究産業支援センター拡張事業等の皆減

歳入

- 自主財源（市税などの自主的な収入）
 - 市税…2億5,014万9千円の減
法人市民税、固定資産税の減
- 依存財源（国や県から定められた額を交付されたり、割り当てられたりする収入）
 - 地方交付税…6億3,954万9千円の増
国税収入の増に伴う追加交付等による普通交付税の増
 - 市債…14億2,130万円の減
普通建設事業費の減および臨時財政対策債の減

歳出額を市民1人あたりに換算すると

64万2千円／年間

民生費 福祉や保育などのためのお金  20万781円	公債費 借金返済に充てるお金  8万2,225円	総務費 課税・納税、職員管理、企画などのためのお金  7万7,014円
教育費 教育などのためのお金  6万4,415円	衛生費 健康増進やごみ処理などのためのお金  5万6,169円	土木費 道路や橋の建設などのためのお金  5万627円
商工費 商工業や観光の振興のためのお金  4万6,069円	農林水産業費 農林水産業の振興のためのお金  3万7,261円	消防費 消防や救急、救助活動などのためのお金  1万9,727円
災害復旧費 自然災害の復旧工事のためのお金  3,363円	議会費 市議会の運営のためのお金  2,926円	労働費 雇用対策などのためのお金  1,000円

歳入額を市民1人あたりに換算すると

65万2千円／年間

市税などの収入



市税 13万1,972円
使用料・手数料 8,495円
分担金・負担金 4,582円
諸収入ほか 3万1,787円

17万6,836円

国からの収入



30万4,974円

県からの収入



8万1,474円

市債(借入金)



3万8,321円

その他の収入

- ・前年度繰越金
- ・基金繰入金
- ・寄附金

など

5万812円

- 市税…市民税、固定資産税、軽自動車税、市たばこ税、入湯税、都市計画税など
- 使用料・手数料…市の施設の利用料、証明書発行手数料など
- 分担金・負担金…特定のサービスを受けた方が負担したお金
- 諸収入ほか…貸付金の元金収入など
- 地方交付税…所得税等の国が徴収した税金の中から、市の財政状況に応じて交付されたお金
- 国・県支出金…特定の事務・事業のための財源として、国や県から交付されたお金
- 市債…投資的経費等に充てるため、国や金融機関から借りたお金
- 地方譲与税…国が徴収した特定の税から配分されたお金
- 各種交付金…地方消費税交付金などの、国から配分されたお金

※令和6年3月31日現在の人口：117,821人で算出。

普通会計決算収支の状況

	令和5年度	令和4年度	増 減
歳入決算額 ①	768億6,853万3千円	775億4,565万5千円	▲6億7,712万2千円
歳出決算額 ②	755億9,118万7千円	757億6,099万3千円	▲1億6,980万6千円
形式収支 ③=①-②	12億7,734万6千円	17億8,466万2千円	▲5億731万6千円
翌年度に 繰越すべき財源 ④	6,989万3千円	4,800万2千円	2,189万1千円
実質収支 ⑤=③-④	12億745万3千円	17億3,666万円	▲5億2,920万7千円
単年度収支 ⑥=⑤-⑤'	▲5億2,920万7千円	▲4億3,518万1千円	▲9,402万6千円
財政調整基金 積立金(★) ⑦	554万5千円	3億6,507万6千円	▲3億5,953万1千円
繰上償還金(★) ⑧	8億7,002万1千円	3億7,064万3千円	4億9,937万8千円
財政調整基金 取崩し額 ⑨	—	—	—
実質単年度収支 ⑩= ⑥+⑦+⑧-⑨	3億4,635万9千円	3億53万8千円	4,582万1千円

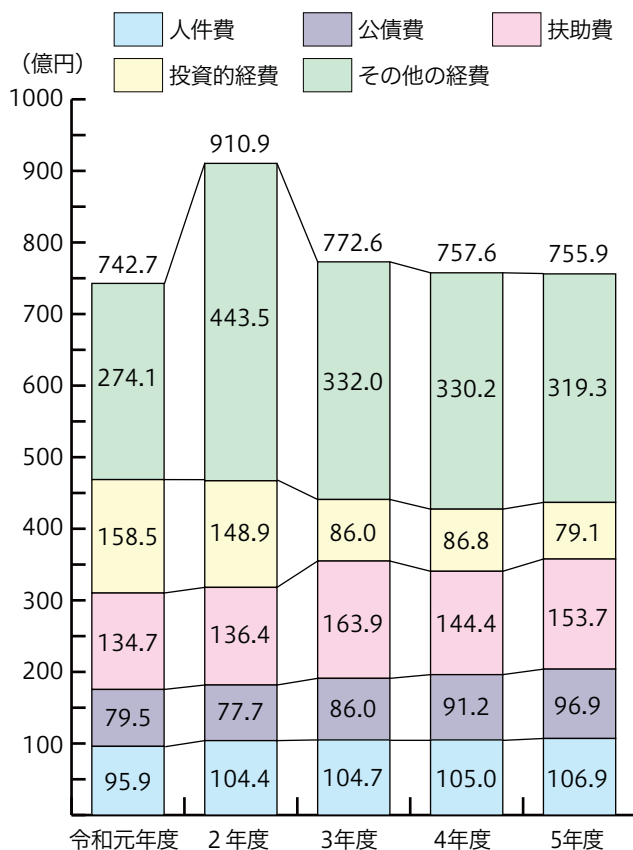
令和5年度の歳入は、地方交付税やふるさと寄附金が増収となりました。また、経費節減など歳出抑制の効果なども現れ、実質単年度収支は前年度に引き続き黒字となりました。引き続き、歳入と歳出のバランスを保ち財政の健全化に努めます。

⑤'…前年度の実質収支

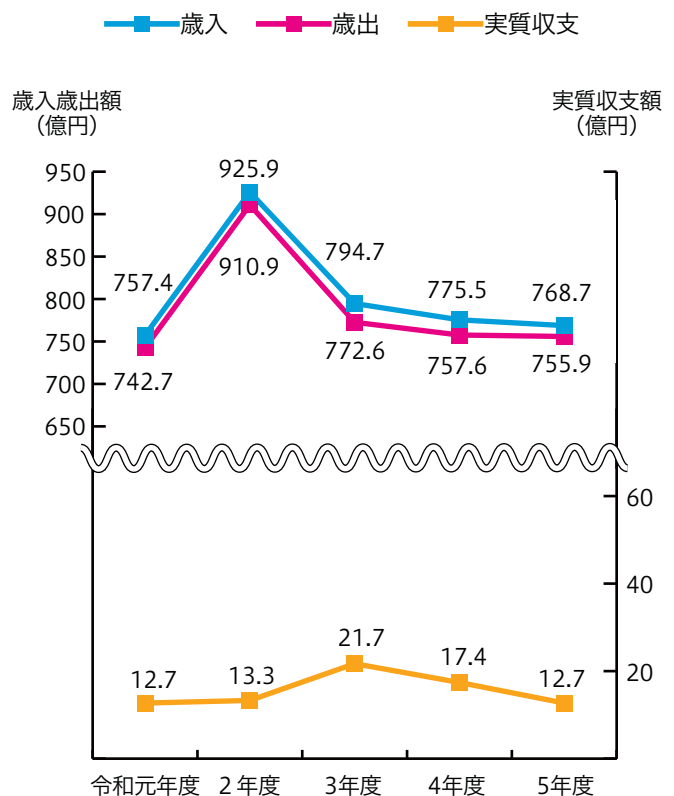
★財政調整基金
4ページの用語の解説参照

★繰上償還金
今後の財政負担の軽減を目的に、後年度に返済予定の市債の元金を前倒して返済するもの

普通会計の性質別歳出額の推移



普通会計の歳入歳出額と実質収支額の推移



鶴岡市の貯金額は？

積立基金(貯金)の総額
164億4,289万1千円
(対前年度 - 11億4,366万5千円)

市民 1 人当たり
14万円

貯金

積立基金の状況 (種類と年度末残高)

	令和 3 年度末	令和 4 年度末	令和 5 年度末
財政調整基金	46億7,555万円	50億4,063万円	50億4,617万円
減債基金	41億98万円	42億9,975万円	43億1,591万円
その他の特定目的基金	地域振興基金	30億4,000万円	29億円
	公共施設整備基金	27億869万円	25億5,316万円
	加茂水族館整備振興基金	12億4,500万円	12億4,108万円
	緊急経済対策金融支援基金	4億804万円	3億7,474万円
	地域まちづくり未来基金	5億4,297万円	5億7,576万円
	その他	7億6,637万円	6億144万円
小計	87億1,107万円	82億4,618万円	70億8,081万円
合 計	174億8,760万円	175億8,656万円	164億4,289万円

用語の解説

財政調整基金 年度間の財源の不均衡を調整するための基金。経済不況等による大幅な税収減や、災害の発生等による支出の増加などへの備えとして積み立てている

減債基金 地方債の償還及びその信用維持のために設置する基金。公債費の償還を計画的に行うために積み立てている

地域振興基金 合併市町村が地域住民の一体感醸成や地域振興を目的に設置する基金

緊急経済対策金融支援基金 新型コロナウイルス感染症の緊急経済対策に係る利子補給等に必要な財源を確保する基金

財政健全化判断比率等

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき、財政の健全性に関する比率を公表しています。
各比率が基準を超えた場合、財政健全化計画の策定等が義務付けられます。

○実質公債費比率

地方公共団体の資金繰りの危険度を示す指標です。公債費のほかに公営企業債に対する繰出金や一部事務組合の公債費に対する負担金等を含めた実質的な公債費相当額が、標準財政規模(★)に占める割合を指します。

5年度は7.4%で、対前年度で0.7ポイント上昇しました。

○将来負担比率

将来の財政を圧迫する可能性を示す指標です。実質公債費比率の対象となっている公債費等に加え、第三セクターの負債の内、市が損失補償や債務保証をしているもので経営状況等に応じて見込んだ負債額を合算した将来負担額が、標準財政規模に占める割合を指します。

5年度は、市債残高及び公営企業債残高が減少した一方で、将来の市債の償還に対する普通交付税の算入見込額が減少したことなどにより、対前年度で2.4ポイント上昇して43.2%になりました。この水準は、早期健全化基準350%を大きく下回っていることから、将来の財政運営に支障を来す状況ではないと判断されます。

財政健全化判断比率等

単位：%

指標	指標の意味	鶴岡市の数値	早期健全化基準 (黄色信号)	財政再生基準 (赤信号)
財政健全化判断比率	実質赤字比率	- ※1 (-)	11.45 (11.46)	20.00
	連結実質赤字比率	- ※2 (-)	16.45 (16.46)	30.00
	実質公債費比率	7.4 (6.7)	25.0	35.0
	将来負担比率	43.2 (40.8)	350.0	
資金不足比率 (公営企業会計ごと)	公営企業ごとの経営状況の深刻度を示す指標	- ※3	経営健全化基準 20.00	

()内は4年度の数値

※1…本市の普通会計で実質赤字額は生じていない。

※2…本市の一般会計、特別会計等の全体で実質赤字額は生じていない。

※3…本市の全ての公営企業会計で資金不足額は生じていない。

★標準財政規模 その地方公共団体が標準的な状態で通常収入が見込まれる一般財源の規模を示すもので、通常水準の行政サービスを提供する上で必要な一般財源の目安

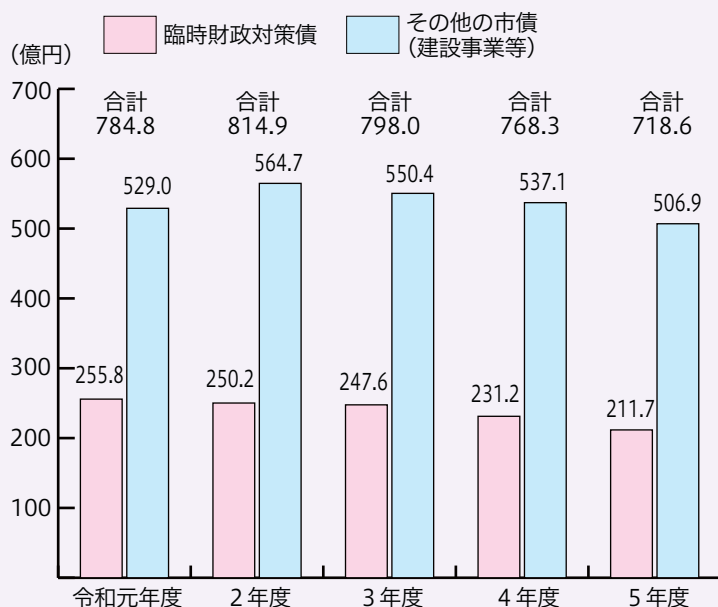
借金

鶴岡市の借金額は？

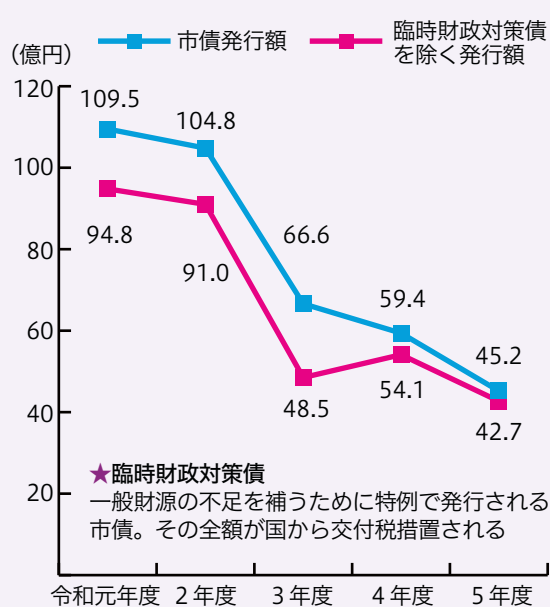
市債(借金)残高の総額
718億5,943万4千円
(対前年度 - 49億6,830万4千円)

市民1人当たり
61万円

市債残高の推移



市債発行額の推移



特別会計と企業会計の決算

特別会計 特定の事業を特定の収入で賄う会計。収支を明確にするため一般会計とは経理を別にします。

会計名等	歳入決算額	歳出決算額	一般会計繰出額	主な事業の内容
国民健康保険特別会計(事業勘定)	142億1,883万円	122億2,070万円	8億87万円	国民健康保険の円滑な運営
国民健康保険特別会計(直診勘定)	4,073万円	4,064万円	2,638万円	上田沢・大網診療所の運営
後期高齢者医療保険特別会計	17億6,546万円	17億5,983万円	5億1,258万円	後期高齢者医療保険の円滑な運営
介護保険特別会計	172億5,962万円	161億8,776万円	21億9,805万円	介護保険の円滑な運営
休日夜間診療所特別会計	5,281万円	5,280万円	1,462万円	休日夜間・休日歯科診療所の運営
墓園事業特別会計	1,500万円	285万円	0円	鶴岡墓園等の管理運営

企業会計 民間企業と同様に、事業の収益によって運営している会計。地方公共団体が経営する企業を「地方公営企業」と言い、本市では病院、水道、下水道の3つの企業会計を設けています。

会計名等		収入決算額	支出決算額	一般会計繰出額	主な事業の内容
病院事業	収益的収支	140億1,551万円	143億199万円	11億3,596万円	病院事業の運営
	資本的収支	23億2,486万円	28億7,003万円	10億1,257万円	病院施設の整備等
水道事業	収益的収支	32億8,276万円	29億7,929万円	1,588万円	水道事業の運営
	資本的収支	2億4,816万円	16億2,013万円	1,959万円	水道施設の整備等
下水道事業	収益的収支	52億6,057万円	50億9,141万円	12億3,018万円	下水道事業の運営
	資本的収支	39億9,899万円	64億2,528万円	12億9,822万円	下水道施設の整備等

特別会計と企業会計の事業は営利目的ではなく公益的であるため、収入が不足する場合は一般会計からの繰出金を受けて運営しています。

第2次鶴岡市総合計画の実現に向け様々な事業を実施しました。
令和5年度に実施した事業の一部を写真で紹介します。



農業経営者育成学校管理運営事業

本市の基幹産業である農業の担い手の育成を目的として、農業経営者育成学校「SEADS」を運営しています。令和5年度は4期生として7人が入校し、3期生6人が修了しました。



ロンドン市場開拓チャレンジ事業

本市の豊かな農産物や加工品等を継続的に輸出し、海外市場での消費拡大を図るため、ロンドン市内日系小売店で販促フェアを開催しました。15日間で1万2,000人を超える来場者があり、鶴岡産農産物・加工品のPRにつながりました。



酒井家庄内入部400年記念事業 NEXT100

令和5年の大河ドラマ『どうする家康』の作中、旧庄内藩主酒井家の祖で、徳川四天王筆頭の酒井忠次公を演じた大森南朋さんのトークショーを開催。また、シティプロモーション冊子の作成など、知名度が高い大河ドラマと連携することにより、効果的な魅力発信・PRにつなげました。



第2次鶴岡市総合計画後期基本計画の策定

令和6年3月に第2次鶴岡市総合計画後期基本計画（令和6年度～10年度）を策定しました。目指す都市像の実現に向けて、後期5年間で特に重視すべき視点を「5つの加速化アクション」と位置付け、施策の着実な推進を図ります。



中期観光戦略プランの策定

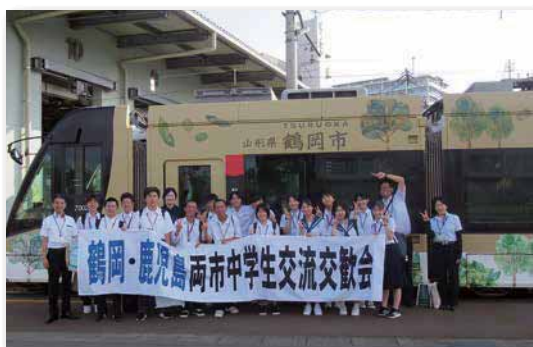
令和6年度～10年度を計画期間とする新たな観光戦略プランを策定しました。将来ビジョン「全ての道は出羽（DEWA）へ通ずる」の実現を目指し、インバウンドを重点とした観光消費額の拡大に向けた観光施策の方向性を決めました。



西目地内土砂災害復旧事業

令和4年12月31日に西目地内で発生した地すべりでは、死者2人の人的被害、31棟の家屋の倒壊など甚大な被害を受けました。市では、市道・宅地に流出した土砂やがれき等を撤去し、道路機能と生活基盤を早期に復旧するとともに、生活環境の保全及び公衆衛生の確保を図りました。

令和5年度に実施した主な事業



小・中学校児童生徒国内交流事業

新型コロナの影響で令和2年の派遣を中止し、令和3年からオンライン等での交流となっていた鹿児島市訪問中学生親善使節団派遣を5年ぶりに再開。本市の中学生11人と引率教員3人が鹿児島市を訪問し、交流を深めました。



子ども夢スポーツフェスティバルin鶴岡2023

親子でいろいろなスポーツに親しめ、また子供たちがスポーツの楽しさを実感する機会の提供を目的に開催。J A鶴岡だだちゃアリーナを会場に、未就学児でも楽しめる「子ども遊び応援ブース」の設置のほか、ストラックアウトなど10種目のニュースポーツ体験事業を行いました。



鶴岡イノベーションプログラム

新規創業を目指す社会人や学生、新たな事業の立ち上げを目指す事業者を対象として、起業家マインド醸成や事業アイデアの磨き上げ等を図るため実施。中長期的に数百人規模の創造的起業家のコミュニティを形成することを目指しています。



コミュニティセンター整備事業

耐震性能の不足や老朽化が著しいコミュニティセンターについて、今後も地域活動の拠点として活用できるよう、計画的に改築を行っています。令和5年度は、大山コミュニティセンターが完成しました。



給食費と18歳までの医療費の無償化

子育て世代の経済的負担を軽減するため、小・中学校の給食費を完全無償化しました。

また、中学生までとしていた医療費無償の対象を、令和5年7月から18歳まで（18歳到達後の最初の3月31日まで）に拡大しました。



鶴岡サイエンスパークまつり

鶴岡サイエンスパークの地域理解の促進や、人材交流による地域機関との連携強化を図る目的で、「鶴岡サイエンスパークまつり」が初開催されました。当日は親子連れを中心に約2,300人が来場し、様々な体験や展示に目を輝かせていました。

令和5年度に各地域の特性を生かして実施した事業を紹介します。

〈鶴岡地域〉



鶴岡地域まちづくり未来事業

由良地区では「ゆら」まるごとインフルエンサー」をキャッチコピーに、住民全員が自分ごととしてまちづくりに参画。「郷」「絆」「宝」「賑」の観点から、地域ビジョン『ゆら「未来予想図」』の実現を目指しています。

〈藤島地域〉



藤島歴史公園「Hisu花」から始まる地域づくり事業

市民有志でワークショップを行い、毎年異なるテーマを定めて趣向を凝らしたイルミネーションを展開。点灯開始イベントである「Hisu花deないと」には、過去最高の5,500人が来場しました。

〈羽黒地域〉



羽黒山スギ並木保全計画策定事業

地域固有の自然環境と文化に育まれた羽黒山の杉並木。始動式には、地元の住民や学生等関係者を含む多くの方が参加しました。樹齢400年を超える杉の現状を知り、保全に向けともに考え行動する機会となりました。

〈櫛引地域〉



黒川能保存伝承支援事業

観世流能楽師シテ方の清水義也氏等を招いて、王祇会館開館20周年記念事業を開催。観世流と下座の仕舞共演と清水氏の講演が行われ、中央五流と黒川能の違いを分かりやすく解説するなどしていました。

〈朝日地域〉



朝日地域若者農業者支援事業

農業をより身近に感じ、地域農業の担い手として意識の共有を図る取り組み。グループワークや研修会、ほ場視察等を行いながら、若手農業者が主体的に農業に取り組める環境づくりを推進しました。

〈温海地域〉



日本国登山イベント実施事業

やまがた百名山「日本国」の標高555mにちなんで、令和5年5月5日に登山交流イベント「日本国555フェスタ2023」を開催。多くの登山愛好家が参加し、県境エリアの新たな魅力による交流人口の拡大につながりました。

今後の財政運営

○安定的な収入を増やす取り組み

歳入は、交付税や国・県の交付金等への依存割合が高くなっています。安定的な収入となる自主財源の確保に向けて、税源の安定的確保、市税等の収納率の向上、受益者負担の適正化を一層図る必要があります。また、ふるさと寄附金の増収に努めます。

○歳出を減らす取り組み

総合計画に基づく施策を着実に推進する一方で、事務事業の見直しやデジタル技術を活用した業務の効率化等による経常経費の削減を一層進めるとともに、公共施設等の今後の在り方やニーズ、適正な優先度の検討を踏まえた投資事業の実施に努めていく必要があります。

○基金の活用

合併特例期間中に将来の財政負担に備えて、基金の充実を図ってきました。安定的な財政運営のために財政調整基金など各種基金の適切な水準維持に努めながら、有効に活用していきます。

○最後に

今後も物価高騰等での社会経済活動の変化による本市財政への影響も考慮しながら、より一層の財政健全化に努めます。また安全・安心な市民生活の維持向上のために必要な各種施策に着手に取り組んでいきます。

鶴岡市の財政・決算及びこの特集についての問合せは
本所財政課 ☎25-2111 内線339、
✉ zaisei@city.tsuruoka.lg.jp へ

広報つるおか特集号

編集・発行／鶴岡市総務部総務課

〒997-8601 山形県鶴岡市馬場町9-25

ホームページ <https://www.city.tsuruoka.lg.jp>



環境に配慮し植物油
インキを使用しています